

ラオス在住邦人の医療対策 (ビエンチャン版)

※ ここに掲載の情報はラオス、タイの医療関係者、知見をお持ちの方などにヒアリングしたものを纏めていますが、随時状況は変化しますので、あくまで参考とし、各自準備・対策を講じて下さい。

2019年7月作成 (Vol 1)

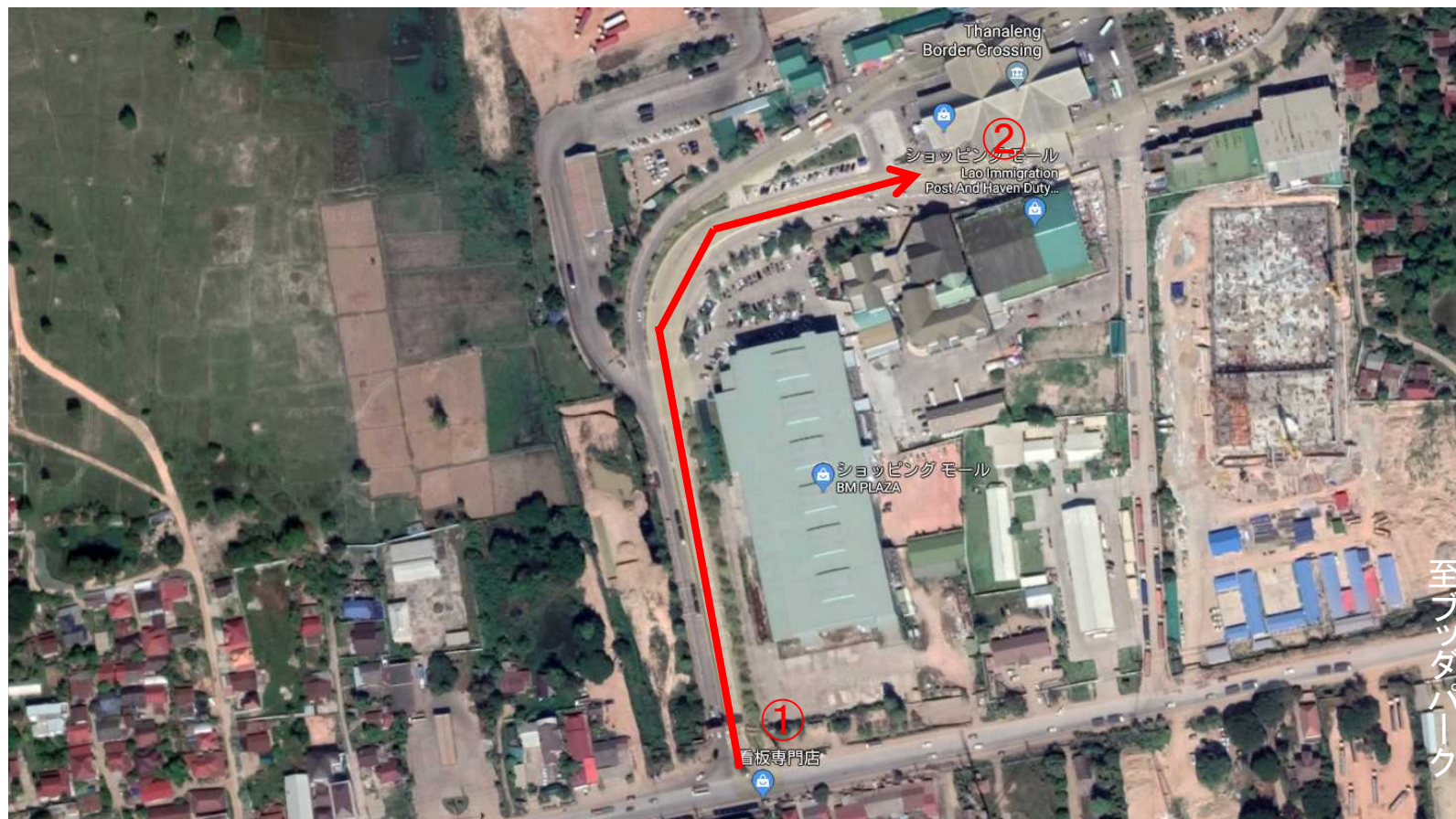
医療処置の場所(国)	地区	移動手段	医療機関名称	対応可能医療範囲	主要連絡先	海外医療保険使用可否	救急車 有無	注意事項・コメント	その他
ラオス	ビエンチャン	陸路 (救急車、一般車両)	Alliance International Medical Centre (AIMC)	・健康診断、診断 ・一部予防接種 ・ごく簡単な初期治療 ・夜中の緊急対応あり	・020-5402-4002 (篠田・24時間ホットライン ラオス常駐) ・020-5402-3652 (濱砂さん)	可	有	・検査機器はある程度完備、健康診断は可。 ・医療能力は一次医療程度 (ごく簡単な治療) ・同病院所有救急車で友好橋を夜中でも渡れるが、Wattana病院搬送が基本。(ノンカいはNG,ウドンタニがBetter) ・現在はウドンタニのBangkok病院他への救急車搬送は受付けていない。→ 患者の選択肢を増やすべく改善交渉要	ビエンチャンレスキューというボランティア団体が運営する救急車があり (電話 1623、英語対応可の時もあり)。ビエンチャン市内からAIMCへの搬送等是对応可のはずだが要確認。最寄りのローカル病院に搬送されてしまう可能性もあり。
		陸路 (救急車、一般車両)	French Clinic	・診断 ・一部予防接種 ・初期治療、薬処方 ・歯科 ・一部のリハビリ	・020-5655-4794 (院長直通携帯: 英語・フランス語) ・021-214150(事務所)	可 (MSIG他)	無	総合診察は可、日本人医師(白石医師)が水曜日除く毎日午後(日曜は午前も)勤務。 医療設備、薬はある程度完備しているが、簡単な処置のみ。追加検査、処置要否の判断が出来る点がメリット。同クリニックに歯科もあり。	French Clinic とAIMCの提携(緊急時の救急搬送など) が出来る場合もあり。(現在ウドンタニのWattana病院への救急搬送に限定される)
タイ	ウドンタニ	陸路 (救急車、一般車両)	Wattana	・一般治療 ・手術 ・ICU ・リハビリ	+66-42-219-888 +66-42-241-956	可、SOSカード有効	有 (AIMC救急車)	・Wattanaノンカいは医療施設が不十分故、30分先のウドンタニに行くこと推奨 ・ラオスからの救急車(AIMC提携) 手配の迅速さを考慮すると、緊急時はAIMC→Wattana(ウドンタニ) が効率良い。 ・ウドンタニで処置不可の場合は下記記載のバンコク 3大病院(提携先) に搬送すること可能。	<ul style="list-style-type: none"> ●タイ陸路入国暦年2回制限との関係：一般旅券所持者はタイの数次入国査証をあらかじめ取得することが望ましい(急患は暦年2回以上でも通してくれることになっているがトラブルの可能性あり)。 ●友好橋 1 経由22時～6時の陸路輸送：急患については、救急車での搬送が強く推奨されるが、これが不可能な場合に一般車を使用する際の留意事項は以下のとおり。但し、一般車両での越境は拒否される場合が多いのが現状。大使館の側面サポートが必要な場合は020-5551-4891に連絡のこと。 ①迅速な通行のためには、本人・同乗者パスポート(又はボーダーパス)オリジナル及びカーブック(車のボーダーパス、1年有効) が不可欠。 ②事前連絡なしでの通行は可能だが、仮眠中の職員を起こす必要あり(例：クラクションを鳴らし続けて知らせる等)。 ③急患で国境を至急通過する必要性を職員に説明する必要あり。ラオス語のできる者の同行が望ましい。 ④正規手続をとらずに緊急通行した場合には、1日以内に再度出頭し、正規な手続をとる必要あり。(手続は別添参照) <p>※救急車、一般車での搬送ともに、ラオス国籍の保証人の同乗を求められる。保証人は入院した場合、本人に代わり、翌日イミグレで正規出国手続を行う人</p>
		陸路 (救急車、一般車両)	Aek Udon international Hospital	・一般治療 ・手術 ・ICU ・リハビリ	・+66-42-342555 ・+66-8-1-954-0954 (緊急用携帯電話)	可、SOSカード有効	有 但し、夜10時以降はタイ側国境までしか出迎え出来ない	・ウドンタニで処置不可の場合は下記記載のバンコク 3大病院(提携先) に搬送すること可能	
		陸路 (救急車、一般車両)	Bangkok Hospital	・一般治療 ・手術 ・ICU ・リハビリ	・+66-42-343-111 ・+66-42-343-444 (Air Ambulance Service) -Mr.Chanit(JOE) InternationalMarketingExecutive +66(8)1369-9855 (外国人対応)	可、SOSカード有効	有 (ただし、タイ側国境まで。基本的にラオス側の救急車との提携なし。)	・ウドンタニの病院としては恐らくベスト。 ・ウドンタニで処置不可の場合はバンコクの同病院に搬送される ・ビエンチャンレスキュー (1623) は、タイ側国境まで患者を搬送し、同所でBangkok Hospitalの救急車に乗せ替えるオペレーションが可能。料金レンジは、200から3000ドルだが、基本的に英語が使用不可であり、ラオス語通訳が必要。 ・ワットタイ空港にAir Ambulance Service (Lao Skyway) のヘリ等が待機しており、ビエンチャン以外の地方都市に急行できる。ただし、出国手続のため、急患現場から一度ワットタイ空港に立ち寄る必要あり。料金は概して高額(例：バンビエン・ウドンタニ間：5,785USD)。また夜の暗い時間はヘリ運航不可。この他航空機のチャーター便 (Lao Skyway) もあり、こちらは夜間飛行可。航空搬送は出発までの所要時間 Min 4時間	
バンコク	陸路・航空機 (一般、チャーター)	Bangkok Hospital	・一般治療 ・手術 ・ICU ・NICU - Neonatal Intensive Care Unit (0-30日の新生児に対応) ・PICU - Pediatric Intensive Care Unit (は1month - 15 years old に対応)	代表・救急連絡先 (コンタクト可能な時間帯 24時間) : 代表: +66-(0)2-310-3000 / 1719(タイ国内) 緊急時 1724 (タイ国内) / +66-2-226-4565 (タイ国外) *タイ語または英語のみ* 日本語コンタクトセンター連絡先 (コンタクト可能な時間帯 24時間) : 日本人クリニック (JMSクリニック): 02-310-3257 (8:00-17:00,年中無休) 日本語コールセンター: 089-814-3000 (24時間, 年中無休) Email center: jpn@bangkokhospital.com (センターが休みのため土日祝日の返信は無し)	可	有	バンコク3大病院の1つ。ウドンタニの同系列病院からの搬送がしやすいと思われる。日本人窓口あり。 日本人医師・看護師在席。日本通訳者常駐。 日本サービスセンターウェブサイトあり (https://bangkokhospital-jsc.com/)。 バンコク駐在の日本人が良く活用。入院病棟手術施設含め立派な施設が完備。	一日の日本人来院数 100人 (うち小児5-10人) 年間のべ 4万人。 東南アジア最大の病院グループ、BDMSの旗艦病院。 60を超える専門科・クリニックでは、欧米や日本で使用される最新の医療機器を使用した最先端の治療が可能で、毎年180ヶ国以上から外国人患者が来院。 内科、産婦人科・不妊治療科、皮膚科、眼科、泌尿器科、消化器科、整形外科、歯科には日本の医・歯学部を卒業、研修をした日本人、タイ人医師が勤務してるため日本語での診察が可能。その他の診療科では24時間体制で勤務する日本語通訳がサポート。 また、BTSプロンポン駅 (エンポリウムタワー) とMRTベップリー駅からシャトルバスが運行しています。(https://www.bangkokhospital.com/en/Shuttle_Van_Services)	
	陸路・航空機 (一般、チャーター)	Samitivaj Hospital Sukhumvit	・一般治療 ・手術 ・ICU ・NICU・新生児集中治療室	・+66-20-222-222 (代表・救急・24時間) ・+66-20-222-122 (日本語コンタクトセンター・7-20時)	可	有	バンコク3大病院の1つ。日本人病棟あり。日本人医師・看護師在席。 バンコク駐在の日本人が良く活用。入院病棟手術施設含め立派な施設が完備。	一日の日本人来院数400人 (うち小児100人)、年間のべ14万人。医師・看護師とも単語レベルで日本語を解すスタッフ多。	
	陸路・航空機 (一般、チャーター)	Bumrungrad International Hospital	・一般治療 ・手術 ・ICU ・CCU ・NCU	コンタクトセンター : 02-066-8888 (英語・タイ語、24時間対応) ・日本語カウンター電話番号 : 02-011-3388 (午前7時～午後7時まで) ・救急センター : 02-011-5222 (英語・タイ語)	可 (主要な保険会社とキャッシュレスで受診できる契約を結んでいる)	有 (有料)	バンコク3大病院の1つ。中近東の高所得者が多く、入院病棟、手術施設含め立派な施設が完備。日本人医師をはじめ日本語にて受診できる医師が複数在籍。日本語カウンター : 年中無休、通訳サービスは24時間対応 (午後7時から午前7時までは電話通訳による対応) 上述のAIMC/Wattanaと提携関係にある。	51の専門科およびセンターからなる総合病院。手術室19室、心臓疾患専用手術室2室、心臓カテーテル施設2室、レベルIVのNICUやCCUなどを含むICUなどを完備。 ファクトシート : https://www.bumrungrad.com/jp/about-us/bumrungrad-factsheet	

<ラオス駐在者の医療に関する注意点>

①海外医療保険等を保有し、緊急時に金銭問題で医療が受けられないことの無いよう留意。診察、患者受入れ前に支払い能力を確認される場合が多い。現金、クレジットカードの場合、大よそUS\$3000程度の支払い能力があること。緊急搬送で活用可能なSOSカード等携行が有効。(緊急搬送でチャーター便使用など、医療費用はMax 数千万円かかることもある)

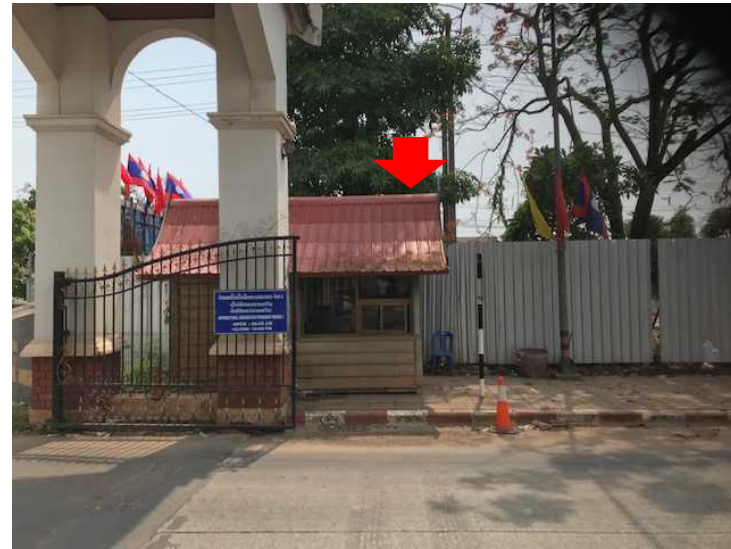
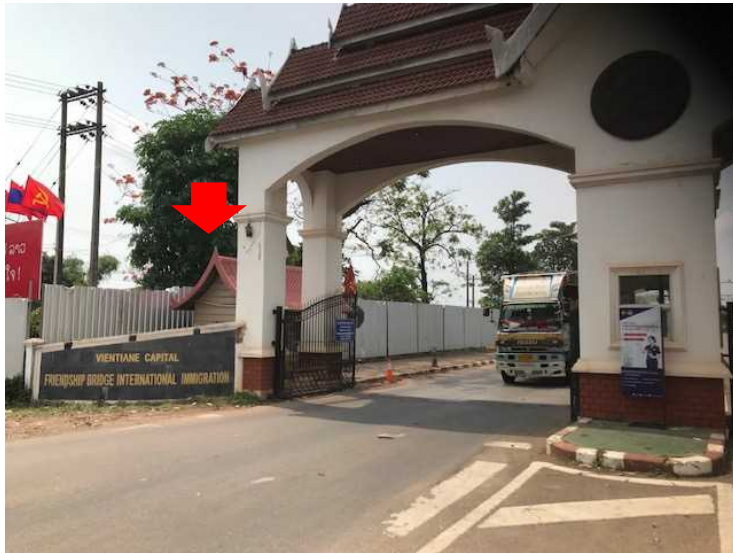
②友好橋からタイ側への越境搬送(特に夜中) は保証人(原則ラオス人) の随行、オリジナルパスポート所持など条件多々。有事に備え事前準備、取り決めておくことを推奨します。保証人としての依頼者には予め役割、責任範囲を説明し、理解を求めておくこと。

③緊急医療とならない様、予防接種、予防医療を推奨。医療関係者からは医療後発国のラオスでは大人の免疫が付いていない小学校低学年までの子供の滞在は特に注意が必要と言われています。



- ① 友好橋正面ゲート
- ② 友好橋ラオス側出入国管理事務所

① 友好橋正面ゲート



- 22時以降は、ゲートが閉鎖(南京錠が備わっているので、施錠される可能性あり。)される。
- 矢印の守衛所に警察官が駐在(仮眠)しているなので、ゲートを開けるよう頼む。
- 警察官が気付かない場合には、クラクションを連続して鳴らすなどして知らせる。

② 友好橋ラオス側出入国管理事務所 (Departure)



- 22時以降は、矢印の12番の出入管事務所 (immigration office) に職員が駐在 (仮眠) している模様。同出入管事務所は、出国ブースを直進した左手にある。
- 同事務所に職員が見当たらない場合には、クラクションを連続して鳴らすなどして知らせる。
- 職員を発見した場合には、急患で通行したい旨を告げて出国手続をとってもらう。
- 急を要する場合には、正規手続をとらずに、簡単な記録を作成した後に直ちに通行が可能。ただし、1日以内に再度出頭して正規手続をとる必要あり。

(タイ側の出入国管理事務所も同様の手続の様様)